

「宇宿小学校の宇宿稲すり踊り伝承活動の取組」

1 学校名

奄美市立宇宿小学校

2 学年・人数

1年生（7人） 2年生（6人） 3年生（4人） 4年生（8人）
5年生（7人） 6年生（4人）

計36人

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和2年4月～10月 朝の活動，創意，総合的な学習の時間
本校屋内運動場・屋外運動場，多目的ホール

(2) 発表の日時・場所

令和2年10月4日（日） 秋季大運動会（本校屋外運動場）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称

うしゆくいね おど
宇宿 稲すり踊り

(2) 由来

明治時代から校区で踊られていた伝統芸能で，戦後，「宇宿稲すり踊り保存会」の方々が継承・保存に取り組んできた。現在は，奄美市指定無形民族文化財，また奄美市認定一集落ブランド（宇宿集落）にもなっている。

本校では，平成5年から「宇宿稲すり踊り」に取り組んできた。「宇宿稲すり踊り保存会」の方々に協力をいただきながら，子供たちだけの発表向けにアレンジをした踊りの練習を続けてきている。

(3) 構成等

「宇宿稲すり踊り」は，島唄である「稲すり節」，三味線や太鼓・指笛等の鳴り物，踊りの3つのグループで構成されている。島唄や鳴り物の軽快なリズムに合わせて踊る。「宇宿稲すり踊り」には，人々の豊作や健康，幸せへの願いが込められている。

5 保存会や地域との連携の具体

「宇宿稲すり踊り」の練習期間中に，「宇宿稲すり踊り保存会」の方を招いて，島唄・鳴り物・踊りの様子を見ていただき，全体で注意しなければならない点を聞いたり，個別指導をしていただいたりしている。特に，三味線の指導については，上達するまでに時間を要するので，夏休み期間を利用して，指導者宅を訪問して指導を受けることもある。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

例年は、子供たちに、様々な発表の場を設定したり、「宇宿稲すり踊り保存会」の方々に「宇宿稲すり踊り」を伝承している思いなどを語ってもらったりしていたが、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、そのような場を十分設定することが難しかった。そこで、屋内での全体練習を取りやめたり、全体練習の回数を減らしてパート練習を中心に行ったりして3密を避けて練習を行った。また、保存会の方の話の代わりに、教師が話をしたり、昨年度までのビデオを見せたりして、意欲を高めたり、島唄や三味線、踊り等の上達へつなげたりした。このようにすることで、子供たちの「宇宿稲すり踊り」を踊ることに対する達成感や自己有用感をもたせることができた。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【稲すり踊りの由來說明】



【パート練習の様子】



【秋季大運動会での発表①】



【秋季大運動会での発表②】

8 参加児童・教職員等の感想・意見

- コロナ禍の中でも、子供が「宇宿稲すり踊りを通して、宇宿（郷土）のことを誇りに思ってもらいたい。」という思いで、工夫しながら練習をした。（教職員）
- みんなといっしょに踊れて楽しかった。（1年）
- 1年生に踊り方をたくさん教えられて、嬉しかった。（2年）
- 運動会でたくさんの人に見てもらえて嬉しかった。（3年）
- 創立140周年だったので、がんばって練習していい発表ができた。（4年）
- パートリーダーとして、みんなをしっかりと引っ張ることができた。来年は6年生として、全体を引っ張っていきたい。（5年）
- 今年最初で最後の発表だったけれど、運動会で最高の発表ができたので、最高学年の責任を果たせたと思う。後輩には、これからもしっかりと稲すり踊りを引き継いでほしい。（6年）